

実践事例

わかすぎ学園PTA連絡協議会

水戸市立第四中学校区小中連携PTA

常陸太田市立南中学校PTA（現金砂郷中学校PTA）

日立市立久慈小学校PTA

潮来市立潮来第一中学校PTA

鉾田市立旭南小学校PTA

土浦市立都和中学校PTA

土浦市立乙戸小学校PTA

古河市立古河第三小学校PTA

桜川市立真壁小学校PTA

筑西市立中小学校PTA

桜川市立岩瀬小学校PTA

わかすぎ学園PTA連絡協議会

<p>地域の紹介</p>	<p>約900年前、源頼義が役のとき勝利を祈り、現那珂市の宮にお礼として菅(ちがや)の屋を寄進したという。これが「菅谷」の地名になったという伝説の残る町である。また、菅谷の「大助祭り」別名提灯祭りは有名な祭りとして各町内の結束が図れる地域である。</p>
<p>学校の紹介</p>	<p>那珂市の中心に位置し、昔から雉(きぎす)の生息地と知られ、学校の伝統で、児童たちを「きぎすっ子」と称し地域に愛される学校であり、平成28年度には創立30周年を迎える。</p>
<p>PTAの紹介</p>	<p>現執行部と、学年委員、各専門委員によって構成され、学校紹介で述べたように、きぎすっ子たちによる、「きぎすっ子祭り」や、イベント、運動会等々に、専門分野の持ち味を出せる、そつのないPTA役員集まりです。</p>

◎はじめに

県央の北部地域に位置する当校は現在児童数471名、教員数32名、PTA会員数379名と現在の学校規模としては大きいほうだと思います。地元では、東小の愛称で呼ばれ、きぎすっ子たちと可愛がられています。

◎事業の名称

わかすぎ学園四中学区PTA連絡協議会講演会
平成27年9月12日(土)実施

◎事業の目的

小中一貫教育校わかすぎ学園となり、はじめて四中学区の講演事業として、菅谷東小学校が幹事校となり、児童生徒とPTAと一緒に楽しみ、心に残るものはとの思いで、サイエンスショーの企画をスタートしました。

理科や科学に興味を持ってもらうことに意義が



あり、将来の道筋のひとつになればとの目的で開催しました。

◎事業の内容

サイエンスショーを依頼したのは、テレビでもお馴染みの、米村でんじろうサイエンスプロダクションによる講演です。



那珂市総合公園アリーナを借り切って、巨大ドームや、煙バズーカ、ブーメラン等々児童生徒、保護者もわくわくしながら実験をした参加型のショーでした。

那珂市教育長、菅谷地区まちづくり委員会の来賓も一緒にドームに入ったり、PTA役員、家庭教育学級役員、児童生徒482名の参加で大いに盛り

上がる事ができました。

◎PTA会員の関わり状況

那珂第四中学校、菅谷小学校、菅谷東小学校各校のPTA執行部、総務委員会、広報委員会、家庭教育学級の参加で企画会議をし、また、当日は、駐車場整理や、プロダクションスタッフとなり、会場設営など、楽しめた関わり方であったと思います。

◎事業の効果(実施してよかったこと)

この講演事業を開催することで、PTA活動の枠を超え、協力者・参加者が多くなりました。小中一貫校としての人と人のつながりができ、子どもたちにとってもいい影響を与えたのではと思います。参加者からは、とても良かったとの声をいただき、米村でんじろうサイエンスプロダクションの皆さんには、ショーが終わってからも児童たちにブーメランの飛ばし方を教えていただいたりと、とても楽しんだ子どもたちの笑顔を見られたことに感謝しています。



◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

大きなこと、新しいことを企画したりすることは



大変難しいことと思います。今回の講演に関しては、プロダクションを招致するまでに約半年かかりましたが、形になり、皆さんが喜んでくれたことに意義があります。今後新しい企画等があれば、是非とも参考にしてほしいです。

◎その後の状況

平成27年度の講演事業が終わり、次回の大きな企画としては平成30年に予定していますが、先の米村でんじろうサイエンスショーに見られた、PTA役員をはじめとする担当者での結束は、ずっと引き続いていくことと思います。企画内容の大小ではなく、子どもたちや保護者の深い結びつきに期待します。

◎おわりに

PTAへの参加・関わりには皆さん躊躇しているのが現在の状況です。とくに大きなイベント等があると、今後も継続?という疑問や心配事となり、参加の意欲が薄れてくるのではと思います。皆さんがちょっと出来ること、時間をとられないよう工夫し参加していただけるようなことを継続していければ、大きな力になると思います。

わかすぎ学園PTA連絡協議会
那珂市立菅谷東小学校PTA会長
大和田 和男

水戸市立第四中学校区小中連携PTA

地域の紹介	本学区には吉田・酒門・吉沢の3つの自治会があり、それぞれ結束力が強く、各種行事もさかんである。南北にバイパスが走り生活しやすい環境である。
学校の紹介	本学区は3小学校・1中学校から成り、小中一貫教育の理念のもと、特色を生かした教育活動が展開されている。
PTAの紹介	各小中学校とも執行部を中心に学年委員・専門委員によって、多種多様なPTA活動が実践されている。「おやじの会」を通したお父さん同士の交流が盛んである。

◎はじめに

各小学校は、児童数が約500～750名、中学校は生徒数が880名を超えている。PTA会員の中には、卒業生が多く存在する。各PTAともに、郷土愛が豊かで、教育活動への協力を惜まず、子どもたちも安心して健やかに成長できる環境が整っている地域である。

◎事業の名称

四中学区1中3小連携PTA事業
平成27年度助成 1月24日実施

◎事業の目的

四中学区内の小中学校では、昨年度より学校間の連携事業が進み、交流が図られてきた。本学区においては、宅地化が進み、新しい住民も多く、児童生徒数も増加傾向にある。そのため、PTAにおいても、それぞれの地域の特性を尊重しながら連携を図っていくことが必要だと考える。

昨年度、各小学校単位毎に行われた地域行事での交流をさらに深める事業を行いたいことから、今年度、各学校PTAに位置付けられている「おや

じの会」の会員の交流を軸に、つながることの大切さを実感できる機会としたい。



◎事業の内容

東北楽天ゴールデンイーグルス前監督である大久保博元氏を招いての講演会を開催した。大久保氏は、本学区が位置する水戸市内の高校からドラフト1位で西武ライオンズに入団し、その後、読売ジャイアンツでも活躍した著名人である。

講演会当日は、「地域とつながることの大切さ～幼少期から野球を通して感じてきたこと、学んだこと～」をテーマに大いに語っていただいた。各学校PTA会員及び児童生徒、地域住民の約300名が地域のコミュニティーセンターに参集し、選手時代や監督時代の苦労話を裏話を交えながら語る大久保氏のトークを楽しんだ。



◎PTA会員の関わりの状況

事業開催に向けて、1中3小のPTA会長及び各

校PTA事務局を中心に計4回の実行委員会を開催した。毎回、事業の目的達成に向け、予定時間を過ぎてでも熱心に話し合う姿がみられ、互いの意見を交わすごとに交流の深まりが感じられた。

多くの地域住民に取組みを周知しようとポスターやチラシを作成するに至ったことも各PTAの熱意の表れである。

◎事業の効果(実施してよかったこと)

この事業を開催したことで、学校間や校種を超えたPTAのつながりを実感できた。健やかな子どもの成長を願うPTAの思いを共有する機会となったことは大きな財産となった。

会場に足を運んでいただいた多くの方々からお褒めの言葉がたくさん聞かれ、達成感につながった。

会場準備を終え、各PTAが互いに昼食を頬張る姿が微笑ましかった。

◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

単位PTAは、それぞれに確立された組織が存在し、機能している。4つの単位PTAが融合した

活動を展開するにあたっては、お互いの立場を尊重し合う心が必要である。

一人一人の意見に耳を傾け、自分事のように受け止める姿勢をもつことで一体感が育まれてきた。本事業の開催を通して、新たな可能性を見出すことができた。

◎その後の状況

本事業が終了して間もないため、事業の成果を検証することは難しいが、身近なPTA活動において、新たな取組みを展開していこうとする機運の高まりが感じられる。中学校のPTA専門委員会の開催行事の案内を小学校でも配付するなどの取組みが見られた。



◎おわりに

この事業に携わっていただいたすべての方々へ深く感謝申し上げます。

子どもたちのためにできる「何かちょっとしたこと」を今後も皆様とともに模索していきたいと思えます。

水戸市立第四中学校PTA会長
三輪 重之

常陸太田市立南中学校PTA（現金砂郷中学校PTA）

地域の紹介	金砂郷地区は、久慈川水系の山田川・浅川が流れ、肥沃な土地・恵まれた地形で水田地帯となっている。縄文時代以降の遺跡が存在し、当地方の中心地だったことが伺える。
学校の紹介	当校は、常陸太田市南西部・大里町中央部に位置する市内でも大規模な中学校のひとつである。周囲は住宅地、水田が広がり、自然豊かな環境にある。
PTAの紹介	PTA本部役員を中心に、地区委員、学年委員及び専門委員によって運営されている。何事にも協力的な保護者が多く、活気あふれるPTAです。

◎はじめに

常陸太田市南西部に位置する当校は、生徒数236名（学級数9）、PTA会員数は217名、教員数は22名の市内では大規模校にあたる中学校です。創立50周年を迎え、学習に部活動に活気のある学校で、地域からは南中（ナンチュウ）の愛称で親しまれている。

◎事業の名称

常陸太田市立南中学校教育講演会
実施年月日 平成24年9月17日（月）

◎事業の目的

当事業は、本校の創立50周年に際し、地域やこれまでのPTA役員の方々の残してきた実績と伝統に感謝するとともに、PTA活動と地域のさらなる活性化、さらに生徒、保護者、地域の絆を深めることを目的とし実施した。

そのため、スポーツ界で活躍している方を招いての講演会を通して、生徒ばかりでなく、保護者・地域の方々、そして南中学校区の2校の小学生の子どもたちを交え、関係する人たちの記念と記憶

に残る事業としたいと考えた。

◎事業の内容

1 親子で炊飯おにぎりづくり・千人鍋

□会場 南中学校運動場

□時間 10:30～12:30

親子で豚汁具材を調理したり、炊いたご飯で親子でおにぎりづくりをしたりして一緒に会食し、親子の絆を深めた。また、地域の方にも参加していただき、一緒に豚汁・おにぎりを会食した。



2 教育講演会

□講師 岩崎 恭子氏

（バルセロナ五輪水泳金メダリスト）

□演題「夢を持って努力することの大切さ」

□会場 南中学校体育館

□時間 13:30～15:00

□参加人数 児童生徒 240名

保護者 108名

地域の方 66名

講演会では、講師の体験に基づき夢を持つこと、夢に向かって努力することの大切さについてお話しいただいた。その後、親子で子どもの夢や希望を話し合い、夢に向かって頑張る意欲付け、子どもを応援する親としての在り方を考えた。



◎PTA 会員の関わりの状況

- ・ P T A 本部役員が、事業の運営に当たった。係（司会・進行・受付・接待・駐車場等）ごとに、人員配置・役割を決めて活動した。
- ・ 千人鍋や教育講演会の実施に当たっては、専門委員会に役割を任せ、率先して事業展開できるようにした。
- ・ 一般 P T A 会員等は、教育講演会の受講者として、また千人鍋等の事業に積極的に参加していただいた。



◎事業の効果（実施してよかったこと）

- ・ この講演会で、親子で子どもの夢や希望を話し合い、夢に向かって頑張ろうとする子どもたち

を応援する意識を高めると共に、親子の絆を深めるよい機会となった。

- ・ 保護者一人一人が当事業に積極的に参加し、自主的な運営・ P T A 活動が展開された。
- ・ P T A 会員相互の協力体制や地域とのコミュニケーションを深めることができた。

◎事業実施に当たって留意したこと（苦労したこと）

生徒の今後の生活に役立ち、保護者の親としての在り方を考える機会とするために、どのような事業とすべきかを P T A 役員を中心に会議を重ね考えた。新しい活動を始めるとはとても大変なことですが、当事業を実施して本部役員ばかりでなく P T A 会員全体の一体感を感じることができた。ぜひ何年後に、新たな事業が行われることを期待します。

◎その後の状況

教育講演会は、金砂郷地区内の小中学校（5校）のもち回りで幹事校を決め、継続実施している。

◎おわりに

年々、生徒数の減少が著しい。金砂郷地区においても、統合による新たな中学校区の見直しが図られ、平成27年度に南中学校と同じ金砂郷地区内の北中学校とが統合し、金砂郷中学校となった。そのため、学区も広範囲となり生徒の登下校、家庭・地域での生活等の在り方が懸念される。

今後は、本部役員を中心に P T A 会員一人一人の和を大切に、P T A 会員同士の連携をさらに深め、P T A 活動を活性化させたい。また、小学校 P T A 及び地域関係機関との連携も深め、子どもたちが安全で有意義な生活ができるように P T A 活動の充実を図りたい。

平成27年度金砂郷中学校PTA副会長
仲田 康人

日立市立久慈小学校PTA

地域の紹介	久慈浜は、古墳時代の横穴墓が点在し、江戸時代からは漁業が栄えていたことから、昔から地域の中心として栄えてきました。大震災によって大きな被害を受けましたが、徐々に以前の活気が戻りつつあります。
学校の紹介	本校は、143年の歴史を誇る学校です。屋上からは、太平洋が一望できる素晴らしい環境の学校です。
PTAの紹介	12名の執行部と21名の学年委員、22名の専門部委員によって運営しています。すべては子どもたちのためにをモットーに各種事業に積極的に取り組み、協力し合って運営しています。

◎はじめに

日立市の南に位置する本校は現在児童数285名、教員数20名、PTA会員数231名です。少子化により徐々に児童数の減少が見られますが、地域に強い結びつきがあり、郷土愛の高い地域です。地域全体で子どもたちを見守ってくれています。

◎事業の名称

大嶋啓介講演会

平成27年度助成 平成28年3月16日実施

◎事業の目的

世界の約70%の子どもが「先生を尊敬している」と答えた一方、日本では、約20%の子どもしか「先生を尊敬している」と答えませんでした。この結果は、日本の子どもたちは、大人を尊敬していないということを表しています。

大人に魅力が無いために子どもたちは尊敬できないと答えているのであるならば、「魅力ある大人」「尊敬される大人」になるために、“自分を輝かせる方法”“自分を変える方法”を学びたいと考え、大嶋氏をお呼びし、「どうすれば人は輝くのか！

輝かせることができるのか！」という演題で講演してもらおうこととしました。この講演を通して地域の多くの方々に学んでいただくことが目的です。

◎事業の内容

この講演では、PTA会員のみならず、地域の方々にも呼びかけをし、229名もの方に参加していただきました。また、講演を企画運営するにあたり、歴代会長会及び前PTA会長を実行委員として尽力していただきました。また、地域コミュニティの青少年育成部や地元の商工会の協力を得ることができました。



◎PTA会員の関わりの状況

PTA執行部が中心となり、企画会議を行い、運営委員会で議案をもとに協議を重ねてきました。

また、地域への働きかけは、歴代PTA会長会が担いました。当日は総務委員が進行を行い、広報が記録を残し、受付接待は、PTA役員と育成部が行いました。駐車場は久慈町商工会が担当するなど、PTA会員だけでなく、地域の方々にも協力を得ました。



◎事業の効果(実施してよかったこと)

たくさんの方々に参加していただき、地域の協力を得て盛會に終わったことに感謝しております。参加された方々からは、「自分も変われるような気がする」とか「ワクワクしているときに可能性を引き出せることを知った。」「今の力の3万倍の可能性があると聞き、びっくりした。」「貴重な講演を聴くことができてよかった。」などお褒めの感想を多数聞くことができました。

◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

地域を巻き込んだ講演会にしようと意気込んで取り組みましたが、参加者が集まるかどうかとても不安でした。また、自分たちだけで運営しようと考えていましたが、規模が大きくなり地域の協力を得ることになり、打ち合わせの時間を確保することに苦慮しました。

◎その後の状況

PTA会員のみの教育講演会は継続して実施していましたが、地域に拡大したのは今回が初めてでした。学校主催の「三世代ふれあいコンサート」「久慈地区スポーツフェスティバル」など学校とPTAと地域が連携しながら行う行事に取り組んできました。この教育講演会についても今回のことをきっかけにして、何年かに一度、地域と連携した講演会を開いていけたらと考えています。

◎おわりに

少子高齢化が続く社会の中で子どもたちが健全に育っていくには学校とPTAが協力連携し合うことがとても大切だと考えています。PTA活動に対して消極的な保護者の方も増えてきているように感じられます。みんなの小さな力を結集するだけで大きなことができるという充実感を得られるような魅力あるPTA活動になるよう努力していきたいと思います。

日立市立久慈小学校PTA会長
星野 修一

潮来市立潮来第一中学校PTA

地域の紹介	江戸時代宿場町として繁栄した潮来は今でも面影を残す情緒ある街です。山車祭が盛んで各町内の結束がとて深く、運動会でも何にでも盛り上がる地域です。
学校の紹介	当校は街を一望する高台にあり利根川の雄大な景色が印象的な学校です。平成13年に現在の新校舎が建設され、街からは山の上にポッコリ顔を出す天空の城のような姿に見えます。
PTAの紹介	学区内小学校2校より選出された執行部を中心として学年委員・専門委員によって運営されています。何事にも協力的な方が多く、人情味のあるPTAです。

◎はじめに

南東部に位置する当校は、生徒数179名、教員数は25名、PTA会員数は162名と少々小さく感じますが現在では普通と言える規模なのでしょう。私を含め卒業生にとって愛着がとてもあり、地元からは一中の愛称で親しまれています。郷土愛の高い地域ですので地域の方の子どもたちへの愛情も素晴らしいです。

◎事業の名称

潮来第一中学校アトリウムコンサート
平成23年度助成 10月1日実施

◎事業の目的

本校には、アトリウムと呼ばれる開放的な空間があります。天井が光を通す材質のため外のような開放感があり、まさに本校の集いの場として活用されています。しかし、実際には「外のような空間」であるがために夏に暑く冬に寒く、そして雨風の強い日には雨が吹き込む状況でとて快適とは言えない、そんな手のかかる集いの場ではありますが、本校の

象徴として愛されています。このアトリウムでPTA、そして地域の方を招いて何か出来ないかと考えスタートしました。会議を重ねた結果、空間を生かした光と音の芸術鑑賞を行う事に決まりました。近代的な当校が学校としてだけでなく、芸術空間としての一面もある事を認識し、学校への愛情を深める事、そして準備や企画を通してPTA会員の結束を深める事がこのコンサートの目的です。

◎事業の内容

音を担当するのは「森音楽事務所」による弦楽四重奏、光を担当するのは照明会社のジャストに依頼をしました。会場は当校のアトリウムを使用し、中心で4人の演奏者が向かい合って演奏し、その周りを360度囲むように見学する事により多くの人が近くで生の音を体感する事が出来ました。照明は夜のアトリウムに月明かりが差し込むようにやわらかい照明で演奏者を浮かび上がらせ、壁に木陰の模様を浮かび上がらせる事により幻想的な空間を演出しました。PTA会員・生徒・地域の方を合わせて180名ほどの参加をいただきました。



◎PTA 会員の関わりの状況

P T A 執行部・厚生教養委員会が企画会議を行い、準備には当校の吹奏楽部も加わります。受付や会場案内、出演者の対応などは委員会の方が対応します。あまり準備や片付けなどを大変にしまうと継続が難しくなるので、丁度良い仕事量にしています。



◎事業の効果 (実施してよかったこと)

このコンサートを開催する事で、P T A 活動への参加者が増えました。学校という場所を通じて人と人がつながり、子どもたちにとっても親たちの積極的な姿が良い影響になっていると思います。参加者からとても良い評価をいただき「毎年開催してね」という声が多く聞かれます。出演された森音楽事務所からも評価が高く「一流のコンサートホールのような音の響きだ」とお褒めの言葉をいただきました。郷土愛の高い地域なので、地元自慢が大好きな私たちにとって自分たちの学校が褒められる事はとてもうれしいです。

◎事業実施に当たって留意したこと (苦労したこと)

新しい活動を始める事はとても難しいと思います。今回この事業のおかげで形にする事が出来ました。形にすれば皆が理解してくれます。P T A 活動がマンネリとなる学校はたくさんあると思いますが、ぜひ何年後かにこのような事業が行われる事を期待しています。

◎その後の状況

平成23年度の実施以来、毎年10月の第一土曜日に開催し今年で5回目を迎えました。曲の構成や楽器の編成、出演者などを変えて常に新鮮さを心がけています。毎年楽しみに参加して下さる方々から色々な感想をいただき少しずつ進化をしています。企画会議でもみなさんが楽しんでアイデアを発言して会議の雰囲気も大分明るくなりました。P T A 会員の結束は目に見えて深まっているようです。もうすっかりこのコンサートは当校の代表する行事として定着していますので、これからも継続されていくでしょう。

◎おわりに

現在の保護者の方たちのP T A へのイメージは決してよくはありません。しかし、大人たちが協力し合い、何かに取り組む姿勢を子どもたちは望んでいます。大きな企画はその後の継続が難しくなるので、適度な仕事の共有と適度な達成感をみんなで感じられる企画が出来ればいいなと思います。みんなのちょっと出来る事が集まればきっと大きな力になります。

今こそP T Aの本質を考えた、ささやかな取り組みこそが必要ではないでしょうか。

潮来第一中学校PTA会長
草野 宏

銚田市立旭南小学校PTA

地域の紹介	鹿行地域の北部に位置し、農業が盛んです。旧旭村である本地区は、以前からメロンの産地として有名で、光センサーで糖度を検査したメロンはブランド品として各地に出荷されています。
学校の紹介	銚田市で一番広い校庭で、児童は伸び伸びと生活しています。今年度は福島県の復興のために「旭南ひまわりプロジェクト」に取組み、ボランティア活動を通してたくさんの方々と絆を深めることができました。
PTAの紹介	執行部5名と環境生活・保健体育・広報・学年委員会によって構成されています。学校行事やPTA行事では、とても協力的です。今年度は、初めて親子キャンプを企画し、好評価を得ました。

の絆が更に深まる日になってほしいと考えました。

そして、学校の活動に協力していただいている地域の方々や学区内の保育園と託児所にも声をかけて、今後ますます地域と学校が連携していけたら素晴らしいと思いました。

◎事業の内容

東京を本拠地として全国各地で講演を行っている「劇団め組」に公演を依頼しました。会場は本校体育館で行いました。当日は、300名近い入場者が集まり、子どもから大人まで楽しめる演目「はだかの王様」を楽しみました。観劇だけでなく児童への演技指導もしていただき、児童が体育館から退場する際には見送りもしていただきました。

昼食は保護者が作ったとん汁とフランクフルト、JA旭村農協様からの焼きいもの差し入れをおいしくいただき、みんな大満足の日となりました。

◎はじめに

当校は児童数137名、PTA会員数115名（うち教職員13名）で、各学年20名程度の小規模な学校です。様々な学校行事やPTA行事では、我が子のため、地域のためにと献身的に協力する保護者ばかりです。

◎事業の名称

「南っ子祭り」親子観劇会

平成27年度助成 10月31日実施

◎事業の目的

毎年行っている「南っ子祭り」では、これまで地域在住の音楽家や県の事業に申し込み、講師を依頼していました。今回は児童に本格的な劇団による公演を見せてあげたく本事業を計画しました。

また、これまでも毎年多くの保護者に参加していただいていたのですが、今回の親子で一緒に観劇することで、家庭で共通の話題になることで親子



◎PTA 会員の関わりの状況

PTA 執行部と学年委員が中心となって、企画・運営に当たります。今年は観劇となりましたが、例年は各学年で行う親子の交流について、学年委員と教師が相談して活動内容を決定しています。また、当日参加者に振る舞うとん汁の仕込みは前日午後には学年委員が行います。鍋や鉄板の搬入は執行部が行っています。



◎事業の効果 (実施してよかったこと)

これまで「南っ子祭り」は、学校だけの行事として行ってきましたが、今回は劇団による公演ということで、地域に声かけするよい機会となりました。参加者も増え、地域の方や参加した保護者の方にも普段の児童の様子やPTAの活動を理解していただけたと思います。

◎事業実施に当たって留意したこと (苦労したこと)

今回の「南っ子祭り」での観劇については、事業決定から予算が確保できるか心配な面はありました。茨城県PTA基金管理機構からの助成金がなければ実施は困難でした。他に、市の青少年市民会議からの助成金と本校PTA会費からの補助で劇団を呼ぶことができました。

◎その後の状況

「南っ子祭り」は、毎年11月の第1土曜を基本として取り組んできました。平成28年度は、11月3日に実施する予定です。来年度の企画については、まだ白紙の状態ですが、新しい学年委員が決定した活動内容の検討を進めていきます。また、平成27年度に初めて実施した学校の校庭を利用した「親子キャンプ」も好評でしたので、続けていこうと考えています。



◎おわりに

本年度児童会が中心となって、福島の復興に協力する「旭南ひまわりプロジェクト」は、保護者や地域を巻き込んだ活発な活動となりました。我々大人も子どもたちに負けないように、ますます児童の学校生活が充実するよう活動を続けていきたいと思えます。

銚田市立旭南小学校PTA会長
米川 和徳

土浦市立都和中学校PTA

地域の紹介	土浦市の北部に位置し、新興住宅地や県営・市営住宅、工業団地が立ち並ぶ南東地区と昔ながらの田園風景が広がり、花き栽培などが盛んな北西地区が共存する地域です。
学校の紹介	当校は、創立32年目（平成27年度）を迎えた中規模校です。学校敷地内には、開校当時植樹された果樹木が茂り、実る果実が四季に彩りを添えています。
PTAの紹介	本校PTAは、本部役員14名、各種委員（町内委員、校外指導委員、成人教育委員、広報委員、保健厚生委員）、各学年委員で構成されている。「おやじの集い」や「PTAバザーでの飲食販売」等特色のある事業を行うなど生徒と近い距離感で活発な活動を展開しています。

◎はじめに

当校は、土浦市北部に位置し、創立32年目（平成27年度）を迎えた中規模校（生徒数407名、学級数14、教員数30名、PTA会員数380名）です。地域は、新興住宅地や県営・市営住宅が多いにも関わらず、「よつわ」という愛称名のもと、住民による地域愛に包まれている環境にあります。本校の学校名も、以前から市内校が創立順のナンバースクールであったにも関わらず「都和中」として開校するなど、地域に愛される学校となっています。

◎事業の名称

都和中PTA「誇りと伝統の再生プロジェクト」
平成22年度助成

◎事業の目的

- ・本事業を展開することにより、本校PTA内の連携をより一層深め、各行事への参加をこれまで以上に増加させる。

- ・PTAと生徒との協働活動を増やし、より親密な関係づくりへの一助とする。
- ・PTAと地域住民との交流機会を一層強化し、都和地区の結束を強め、地域活動の質的向上を目指す。

◎事業の内容

学校敷地内南側斜面に植樹されている梅の実を活用して「梅干し・梅酒・梅ジュース」製作活動を通し、生徒の学校教育活動及びPTA活動諸事業を実施しました。

①梅木の消毒【4/24 PTA本部役員】

- ・これまで業者依頼だった消毒活動をPTAで行い、本事業の機運づくりとしました。

②梅の実の収穫【6/16 1学年生徒（総合的な学習の時間）140名、保護者30名】

- ・1学年の総合的な学習の時間において、特色ある学校行事の一貫として、親子協働による梅の実の収穫を行いました。



③梅干し漬け、梅酒・梅ジュースづくり

【6/22 PTA本部、家庭教育学級委員】

- ・1学年親子で収穫された梅の実は、翌週にPTA本部役員と家庭教育学級委員により、洗浄が行われ、梅干し漬け、梅酒・梅ジュースづくりが行われました。





- ④体育祭時生徒への梅ジュースの配付及び来賓への梅干しプレゼント【9/9】
- ⑤梅干しの袋詰め・バザーでの販売【10/21・23 P T A本部・保健厚生委員】
- ⑥都和中地区新春懇談会時の「乾杯酒」としての梅酒振る舞い

◎PTA 会員の関わりの状況



本事業のスタート時に、一部のP T A会員だけの活動で終わらないように、数回ある活動を各専門委員や家庭教育学級の事業と共催させるなど、幅広く役割分担しました。その甲斐もあって、梅干しづくりの過程で多くの会員が携わることになり、みんなの「ものづくり」という意識が芽生えました。

◎事業の効果(実施してよかったこと)

開校当時にP T Aの先輩方が実りある学校にしようと1本ずつ植樹してくれた梅林を有効に活用する機会が生まれ、大変効果的な事業となりました。

本事業を通して、P T A活動のマンネリ化を解消し、例年実施しているP T A諸事業に対する参加意欲も高まってきています。

梅の実の収穫では、木登りのできない息子に、木登りの手本を見せる父親が見られるなど、日頃の家庭生活でも見るのが少なくなった親子の交流が随所に見られました。

◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

農作業等の経験が少ないP T A会員が多く、梅木の剪定や消毒、梅干しや梅ジュースの作り方等活動過程での細かな問題は絶えずありました。しかし、P T A会員O Bや地域の経験者の方々から指導を得るなど、P T A活動が地域との連携を深めるという副産物もありました。

◎その後の状況

「誇りと伝統の再生プロジェクト」
(梅干し・梅酒・梅ジュースづくり)
平成23年度～27年度実施

梅干しの漬け方は、例年、平成22年度P T A会長を講師とし、以降同じ塩梅が引き継がれることになりました。年度が増すごとに地区住民からも「都和中の梅干し」と評判を受けるほどになっています。



◎おわりに

生徒もP T A会員も学校敷地内の梅林を活かすことで、都和中の生い立ちを知ることになり、都和中生としての「誇り」を持ち、「伝統」の大切さを感じてもらえる大切な事業となっています。この経験を得た在校生が、親世代になったとき、この事業を次の世代に繋げてくれることを期待しています。

土浦市立乙戸小学校PTA

地域の紹介	土浦市の南部に位置し、つくば市・牛久市に隣接しています。首都圏への交通の利便性が良く、学校の南側は閑静な新興住宅地です。北側は田園地帯で乙戸沼も近く豊かな環境です。大型ショッピングモールができ、バイパスも整いました。
学校の紹介	本校は、閑静な住宅地の中にあります。近くには白鳥が飛来する乙戸沼があり、自然環境も豊かです。
PTAの紹介	PTAの本部役員は、協力的な方が多く、非常に行動力があります。多くの役員が、乙戸小の卒業生であり愛校心がいっぱいです。

◎はじめに

土浦市の南部に位置する本校は、現在児童数367名、教職員数22名、PTA会員数273名の中規模校です。「自らの力でたくましく生きる人間性豊かな児童の育成」を学校教育目標に掲げ、保護者との緊密な連携を図りながら、教職員一同日々努力をしています。本校のPTAは、たいへん自立的で行動力があり、児童や乙戸小学校のために常に有意義な活動を実施しています。

◎事業の名称

乙戸小学校花いっぱい&裏庭再生プロジェクト
平成25年度助成
実施期間：平成26年2月～平成26年11月

◎事業の目的

本校は、平成25年度で創立30周年を迎えました。創立以来、乙戸小まつり・市民体育祭・地域と連携した防災訓練等、PTAや地域と連携した活動を行っており、地域コミュニティの中核を担っています。学校が、PTAや地域とともに児童にとってよりよい教育活動を展開していくために、

PTAとしても学校の緑化活動（児童三苗運動・花いっぱい運動等）に積極的に協力をしています。

平成25年度は創立30周年を迎えたということで、その記念に以前から取り組んできた花いっぱい運動と裏庭再生プロジェクトを進めていくことで、児童の自然を大切にする心や地域に貢献する



心を培うこと、そしてPTA会員や地域住民の学校教育活動への参画意識や理解、団結力がより一層高められることが期待できると考えました。

◎事業の内容

裏庭再生プロジェクトでは、どんな裏庭にしたいか、「夢の裏庭デザインコンテスト」を行い、児童からイラストや設計図等のアイデアを募集



し、児童や保護者の投票によって決定しました。児童の夢を叶えるべく、ウサギの飼育小屋の整備や芝生の貼り付けをPTAと教職員が協力して行いました。

創立30周年を迎えた乙戸小学校の裏庭を

「3〇(さんまる)パーク」と名前をつけ、そこにはちょっとした野外活動が可能な「3〇(さんまる)デッキ」を整備しました。また、整備した裏庭にコキアを植え、毎年11月に行われる乙戸小まつりでほうき作り体験を行いました。

◎事業の効果(実施してよかったこと)



今まで暗いイメージだった裏庭が、PTAと児童・教職員が一体となって季節の草花を植え整備したことで、季節感あふれる美しい憩いのスペースになりました。その後、児童が中心となって除草作業を行い、コキアを大切に育ててきました。11月に行った「乙戸小まつり」では、赤く色づいたコキアを使ってのほうき作り体験をPTA本部役員が行い、大好評でした。

「乙戸小まつり」は、全児童はもちろんのこと、多くの保護者や地域の方が参加し、「3〇(さんまる)パーク」や学校の様子を知ってもらうよい機会になりました。こぼれたコキアの種から、苗を育て、秋の紅葉を楽しんだ後、ほうき作りをするといった活動を、今後も継続しさらに充実をさせていきたいと思えます。

◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

一番大切にしてきたことは、常に児童を中心ということでした。大人の目線で、よかれと思ってやったことが、児童にとっては実はそれほど興味・関心が高くなく、見過ごしてしまうということもあ

りがちです。今回の取り組みは、児童の思いや願いを最大限に生かし、それをPTAや教職員等が実現するかたちで取り組みました。その結果、児童も校内の緑化活動に積極的に取り組み、「3〇(さんまる)パーク」の完成を心待ちにしている様子が見られました。

しかしながら、手つかずだった裏庭を、児童の思いや願いを大切にしながら整備するためには、人



の手のみでは難しく、専用の機械を導入した作業となってしまいました。また、たくさんの方々に協力をしていただきましたが、奉仕作業日が増えたことを負担に思う方もいました。今後の維持管理が課題であると考えます。

◎おわりに

今後もPTA本部役員を中心に、学校・児童・地域の方々と良好な関係を保ち、学校緑化活動を継続していきたいと考えます。また、今回の事業を機会に結成された「おやじの会」の会員も増加傾向にあるので、「3〇(さんまる)パーク」の維持管理についても、協力を得ることが期待できます。なにより、暗かった裏庭が、児童が過ごしたくなる憩いのスペースに生まれ変わり、児童が自然を大切にする心や奉仕をする心の一助となっているということが、大きな成果であると思われま

土浦市立乙戸小学校PTA会長
高森 徹

古河市立古河第三小学校PTA

地域の紹介	茨城県最西端の位置にある古河市は関東平野の真ん中に位置し、古くから城下町として栄えてきました。かつては古河公方が存在し、東日本の中心地だったと言われています。三小学区はそんな古河市の駅東口の街中に位置し商業、住宅街の密集地帯になっています。
学校の紹介	昔からの住宅街、商業地域の中にあり、商業施設、住宅街に囲まれた環境にあります。学校を囲むように生垣があり、桜の木、その他緑も多く、放課後、休日には様々な団体が三小を使用しています。向かい側に古河一高、歩いて数分の所に古河三中があり、伝統的に学力も高く、素直で闊達な子どもたちが多く古河の学習院と言われています（一部の意見）。
PTAの紹介	何ととっても明るくパワフルな綺麗どころのお母さんたちに支えられています。（多数の意見）

◎はじめに

古河第三小学校は全児童数310名（現在）
全学年2学級制の中規模校
学校敷地内にデイサービスがあり、児童とお年寄りとの交流も行われています。

◎事業の名称

地球のステージ
平成23年11月9日（水）実施

◎事業の目的

家庭力、地域力が減退している昨今、家庭や学校、地域にて様々な問題が起こっています。その様な環境の中、毎年度PTA主催による講演会やコンサート等の行事を行ってきました。その中で、子どもたちに多面的な物の見方が出来る様、国際理解教育、人

権教育を含む多角的な観点を持つ「地球のステージ」を企画し、心身共に逞しい人間に育ててもらふ事を目的にこの行事を実行したいと考えました。

◎事業の内容

地球のステージ

国境なき医師団に所属する桑山さんが世界各国の災害地、紛争地域を回りながら、その様な環境の中で生活する子どもたちの映像や写真に音楽や語りを組み合わせてコンサート風を実施します。

「環境の悪い中、生きるため子どもたちは必死です。しかし、そんな中でも子どもたちは目を輝かせ生き生きと生きている。」そんな映像や実話のエピソードを伝えてくれます。また、自らも被災した経験を元に3.11の東日本大震災からの復興の様子を地元の目線、子どもたちの目線で被災地を見、復興に向けての取組みを紹介してくれます。

- ・講師 桑山 紀彦
- ・会場 古河市立古河第三小学校
- ・参加者数 児童 348名
保護者 148名
職員 23名



◎PTA 会員の関わりの状況

教養文化の保護者の方々と事前準備、当日準備と後片付けに至るまで実施すると共に、周りの学校にも告知させていただき、単P会長さん、役員さんが視察にいらしてくださることもあります。

◎事業の効果（実施してよかったこと）

中学生になった子どもたちに小学校で体験し

た行事で印象に残った事はなに？と尋ねると多くの子どもたちがこの「地球のステージ」と言ってくれます。

また、平成27年9月に発生した、常総市を中心とした降雨災害に際し、本校児童の6年生を中心に児童自ら何か出来ないかとの話し合いを行い、全児童で自宅にて雑巾を手縫いで作り被災地に贈りました。三小祭(文化祭)においても、ブースを設け来場した大人に雑巾の作成をお願いし、全児童のメッセージカードを添え常総市に送らせていただきました。児童自らの計画、行動を伴う素晴らしい活動でした。この原動力となったのが、日常から行っている心を育てる教育の成果であると考えています。

◎事業実施に当たって 留意したこと(苦労したこと)

講演会、コンサート等の事業は実施をしてもその効果を導き出すのは難しいと言われてしています。その様な中で、事業によるインプット、それより遥かに大切なのがアウトプットをさせる事と考え、地域活動に親子共々参加出来る様、地域の盆踊り大会、夏祭り、その他様々な事業の開催等を通じ地域、学校、家庭が助け合い地域創りに寄与することを目的とし、また卒業した子どもたちにボランティアでの参加を依頼し、地域に根付いた人材創りにもチャレンジしています。



◎その後の状況

事業の開催後、地域の自治会の方々との話し合いにて、地域で子どもを育てていくという観点に立っていただき、地域一丸となり学校を支援していただきたい旨の話をしました。事業に関する予

算は30万円ほどかかるのですが、2年に1度、地元のコミュニティから10万円、市から10万円、学校から10万円という形が出来様になり、1年おきに開催できる仕組みを作る事が出来ました。

平成23年11月 地球のステージ1

平成24年11月 地球のステージ2

平成26年 2月 地球のステージ4

平成28年度 開催予定



◎おわりに

私たち大人が教育に携わり、貢献出来る事は沢山あると思います。しかしながら、実際に関われることは限りがあります。今後、貴重な力を集結し事に挑まなければならない時代に突入していくように思います。

そんな時に、最大限の力を結集し、最大限の結果を残すためには学校、保護者、地域が一丸となり対処することが望ましいと思っています。そのため地域作り、人創りは避けては通れないと思っています。地域が一丸となり、知恵を絞り未来を担う人材を創っていく。そのためには、何を大切にし、何処を目的地にしていくのか。それを定めて、進んでいくことが肝要かと思っています。古河第三小学区は子どもたちの学力の向上は勿論のこと、人間力を上げる事を重要課題と考え、しかも地域一丸となり取組む事にチャレンジしています。これから訪れる超高齢化社会、人口減少社会に対処し、結果を残すためには時間がかかります。今の成果は未来に現れます。

少しでも明るい未来を次の世代に繋ぐため、これからも皆で頑張っていきたいと思っています。

桜川市立真壁小学校PTA

地域の紹介	南に筑波、東に加波、足尾連峰を望む桜川市真壁町は、四季折々に彩りを変える美しい自然にあふれ、また「真壁のひなまつり」で広く知られるとともに、重要伝統的建造物群を残す歴史と伝統が息づく町です。
学校の紹介	本校は創立142年目の伝統校です。あいさつ運動や集団遊びを通じた人間関係づくりや、食育、清掃活動の充実による基本的な生活習慣と好ましい勤労観の醸成など、様々な特色ある教育活動が実践されています。
PTAの紹介	親・子・孫の三代にわたり本校に学んだ家庭が多いため、教育への関心が高く、PTA活動が大変盛んです。各学年委員は父親役員が6年間継続して務め、子育てのよき相談者として会員の信頼を集めています。

◎はじめに

茨城県の西部、筑波山麓に位置する真壁小学校は、現在児童数419名、学級数17、教員数25名、PTA会員数322名の中規模校です。「真小」の愛称で、地域のコミュニティーの核として広く親しまれるとともに、過去2回の交通安全子供自転車全国大会優勝や、キャリア教育の功績による文部科学大臣賞受賞、理科教育における幡谷教育振興賞受賞など、地域の中心校として輝かしい教育的成果を上げています。

◎事業の名称

真壁小学校職業フォーラム

平成23年度助成 11月4日実施

◎事業の目的

全学年を対象として、学校とPTAが共同して職業人の話を聞く会を開催し、その職業の魅力や就いたきっかけ、苦労などをうかがったり、実際に

仕事を体験したりすることを通して、児童に望ましい勤労観や職業観を育てることを目的としています。また、この職業フォーラムの開催に向け、学校とPTAが連携・協力し、多くのPTA会員が関わり成功に導くことで、子どもたちの将来に向けた地域の協力体制を確固としたものにし、学校と地域社会のつながりを一層深めるきっかけとなることを願っています。

◎事業の内容

約20職種に上る講師を招き、小学校の教室や調理室、理科室、コンピューター室、音楽室などの特別教室、体育館や校庭等、学校施設全体を使い、それぞれの会場に分かれた講師に、児童に自らの職業に関する想いを熱く語っていただきました。講話が中心でしたが、その中でも専門家としての「技」を披露する場面があったり、児童の体験の場が用意されたり、児童の質問に答える場面があったりと、児童の多様な興味・関心に十分に答える内容となりました。



主な職種は、助産師、ダンス講師、消防士、警察官、石材業・和菓子職人、理容師、酪農家、大工、銀行員、シンガーソングライター、二輪レーサー、パティシエ、自衛隊員、雑誌編集者、梵鐘製造、生花店経営、

等、多方面にわたっています。講話終了後には、児童からお礼の言葉とともに、合奏や歌のプレゼントが披露され、フォーラム全体を通して終始和やかで、学校・PTA・児童が一体感を感じる温かな雰囲気の中で進められました。



後日、講師一人一人に、児童からの感謝の手紙が届けられましたが、「私も誇りをもって働ける仕事を見付けたい」「どんな夢でもあきらめずに努力していきたい」などの感想が綴られ、職業フォーラムを通して、児童一人一人が将来の夢を広げられたことが分かりました。

◎PTA 会員の関わりの状況

PTA運営委員会が中心となり、職業フォーラム実行委員会を立ち上げました。委員会は全PTA会員に本事業の趣旨を周知するとともに、会員自身にも講師をお願いする一方、情報の提供を呼び掛け、講師を紹介していただきました。また、学校とPTA運営委員会が協力し、講師との事前説明会を開催し、そこで児童の思いや疑問を伝え、興味・関心に応える充実したフォーラムとなるよう図ったり、継続して講師との連絡調整や、当日の運営・接待等を行ったりしました。さらに、フォーラムが親と子が共に学ぶ場となるよう、児童だけでなく、会員にも積極的な参観を呼び掛けました。

◎事業の効果(実施してよかったこと)

職業フォーラムで聞いたことや体験したことが各家庭で話題となり、子どもの将来の夢を家族ぐ

るみで育んでいきたいという思いを高めることができました。また、児童自身が両親の職業にも関心をもったことで、新たな視点で自分の両親を見つめることとなり、親子の絆を一層深めるきっかけとなりました。もちろん、この職業フォーラムが学校と地域社会との連携・協力体制を一層強いものにしたことは言うまでもありません。

◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

児童の興味・関心に応えるため、県内外から様々な職種の講師の方をお招きしています。そのため、PTA運営委員会が担当を決めて、連絡・調整を行っていますが、打合せの場の設定など、思うように進められないことがありました。また、継続してきた中で、職種が固定化されてきており、高学年の児童にとっても、新たな発見や感動のあるフォーラムにするためには、新たな工夫が必要だと考えています。

◎その後の状況

学校行事との関係で規模を縮小して実施した年度もありますが、平成21年度から7年間、継続開催に至っています。今では、特色あるPTA活動として話題に上がることも多く、他校から「参観したい」とのお話をいただくこともあります。この職業フォーラムの開催から、PTA会員の結束はさらに深まりました。本校の行事の目玉として定着したフォーラムがさらに発展するよう、PTA活動の充実を図っています。

◎おわりに

私たちPTAは、今後も「子どもたちの健全育成のためにPTAとして何ができるか」を第一に考え、学校への協力・支援を心掛けるとともに、主体的に活動するPTAとして努力していきたいと考えています。

桜川市立真壁小学校PTA会長
増 実

筑西市立中小学校PTA

地域の紹介	豊かな自然が広がる地域が多く、生産量が県内1位である梨のほか、こだますいかや米など農業が盛んである。
学校の紹介	当校は、明治6年に設立され開校144年目を迎える伝統ある学校です。学校田では、もち米を種まきから田植え・稲刈りまでを行い、そのもち米を使ってもちつき大会を実施したり、卒業式に赤飯をお祝い配付したりしています。
PTAの紹介	本部役員を中心として学年委員・専門委員（保体環境・研修・広報）によって運営されています。親子行事である「つつじが丘祭り」や「もちつき大会」等の行事に対して協力的な方が多く、地域密着型のPTAです。

◎はじめに

栃木県との県境である筑西市の北部の高台に位置しており、東側には、五行川が流れ、筑波山を南東に望むことができます。当校は、現在児童数144名、職員数は16名、PTA会員数は112名という小規模校ですが、卒業生や地域からの支援や協力を得ることができ、郷土愛の高いすばらしい地域です。

◎事業の名称

避難所模擬体験宿泊学習

平成24年度助成 8月25日実施

◎事業の目的

東日本大震災により多くの人々が避難所生活を余儀なくされました。私たち筑西市においても、建物が一部損傷し、電気や水道の供給が滞りました。近い将来このような地震がまた発生することを想定し、学校の体育館にて居住スペースをダンボールで製作し、避難所生活を模擬体験させることで災害時に備えられる児童を育成したいと考えました。

◎事業の内容

期 日 H24.8.25(土) PM1:00～26(日) AM9:00

場 所 筑西市立中小学校 体育館・校庭

参加者 1～6年の児童及び保護者

活動内容

第1日目

1. ダンボールハウスの製作
2. ダンボールハウスの製作発表会
3. 消火栓を使用しての放水体験
4. 羽釜を使用しての炊飯とカレー作り
5. ビデオ鑑賞会

※ダンボールハウス製作からの活動の様子を上映

6. 自作のダンボールハウスにて就寝

第2日目

1. 起床後、ラジオ体操
2. 朝食
3. ダンボールハウスの片付け
4. 解散



【ダンボールハウス製作の様子】

◎PTA会員の関わりの状況

当事業を実施するに当たって、4月にPTA本部役員・学年委員・研修委員による合同会議を開き、実施計画や役割分担等について話し合いました。

研修部員は、行事参加者や必要な物資等の取りまとめを中心に行いました。その際、活動中のグループづくりでは、有意義な活動になるよう学年及び男女の人数に配慮しました。本部役員は、行事運営及び地域の方との連絡調整を行いました。PTA会員は、保護者として児童の製作活動や食事

の調理の支援を中心に関わられるようにしました。

◎事業の効果(実施してよかったこと)

この避難所模擬体験宿泊学習を実施したことにより、児童や保護者の防災への意識は高くなってきました。また、緊急避難場所である小学校の体育館や校庭を使用しての体験活動を実施したことで、万が一の震災時の対応について親子で学ぶことができました。また、児童の感想には、「震災で学校が避難所になった時、地域の一員として自分ができることを少しでもやろうと思った。」「万が一の時には、自分の身は自分で守りたい。」等の記述がありました。これらのことから、児童は、震災時に備えての予備知識や心構えをもつことができました。

◎事業実施に当たって留意したこと(苦労したこと)

この事業を実施する上での最重要課題は、児童の健康管理と事故防止でした。夏の暑い時期の実施であったため、PTAで熱中症を予防するための水分補給用の冷水の完備や簡易プールでの水浴び、かき氷の配付等を実施しました。夕食は、薪を使用して羽釜で炊飯し、大鍋でカレーを子どもたちと一緒に調理しました。夜間は、体育館に虫侵入対策のために防虫ネットを設置したり、就寝時の定期監視を実施したりすることで健康管理に留意しました。

課題としては、学校が避難所となった場合の各家庭のプライバシーを保護するために居住スペースをどのようにするのか難しいと感じました。



【ダンボールハウス製作の様子】

◎その後の状況

平成24年度に続き、25年度もPTA本部・研修部が中心となって避難所体験宿泊学習を同様の内容で実施しました。平成26年度には、この2年間の事業を土台として、NPO法人茨城県防災士ネットワークの方々を講師としてお招きし、避難所開設時の「部屋割りの仕方」や「生活のルールの決め方」について研修しました。

平成27年度は、筑西消防署と日本赤十字社茨城県支部の協力を得て、「防災訓練・着衣水泳体験」を実施しました。これからも、自分の身は自分で守ることができる児童の育成に努めていきたいと思えます。



【H27 防災教室】

◎おわりに

2011年3月11日、午後2時46分東日本大震災発生。発生直後、目にするもの全てがあまりの衝撃でした。子どもたちは、ちょうど下校時間。余震が続き、屋根瓦が落ち、塀が倒壊しているのを目の当たりにすると、心配は増しました。小学校に向かい、先生方が子どもたち全員を保護してくれているのを見て、安堵したのを思い出します。昨年も、東北・関東豪雨が発生しました。災害直後、人は「防災」を強く意識しますが、時間が経つにつれ薄れてしまいます。日頃から、家庭・学校・地域がコミュニケーションを十分図り、防災活動を通して、「防災」に対する意識を継続することが大切かと思えます。災害に備え、PTA活動の一環として、今後も防災教室を実施していきたいと思えます。

筑西市立中小学校PTA会長
鉄炮塚 剛士

桜川市立岩瀬小学校PTA

地域の紹介	市北部は商業地帯で、市南部の筑波山、市東部の雨引観音は、観光地としても有名です。市名は市内に発し、市域を縦断して霞ヶ浦に注ぐ河川「桜川」に由来しています。
学校の紹介	明治8年に犬田小学校として創立されました。創立140周年の伝統ある小学校です。校訓は「至誠 勤労 協同」です。
PTAの紹介	学区内の各地区から選出された本部役員10名を中心に、地区代表委員10名、専門委員61名、学年委員24名によって構成されています。各専門委員会の活動や学年委員会行事の運営、学校行事への協力等を行っています。

◎はじめに

本校は、山桜の名所として知られる桜川市の北部に位置し、児童数408名、教職員数29名、PTA会員数334名の中規模校です。

岩瀬地区には、霞ヶ浦に注ぐ桜川の源流「鏡ヶ池」があり、能楽作品 謡曲「桜川」の舞台でも広く知られています。

◎事業の名称

PTA親子音楽鑑賞会（ハートフルコンサート）
平成27年11月12日（木）実施

◎事業の目的

音楽は、生活と密接に結びついており、切り離すことはできない。その音楽には、人間だけがもつ感性や想像力を刺激する力がある。感性や想像力は、「今・未来」の社会や生活をつくっていく糧となるが、地方に在住しては、本物の音楽を聴くことがなかなかできない。そこで、本校卒業生で、プロとして活躍中のオペラ歌手を招き、本物の歌を子

どもたちに届ける音楽鑑賞会を実施する。また、卒業生であるオペラ歌手に、夢に向かって頑張ってきた体験を子どもたちに話してもらう。

◎事業の内容

- 講師：九嶋 香奈枝 様（ソプラノ）
小林 由佳 様（アルト）本校卒業生
大槻 孝志 様（テノール）
北川 辰彦 様（バリトン）
田村 ルリ 様（ピアノ）

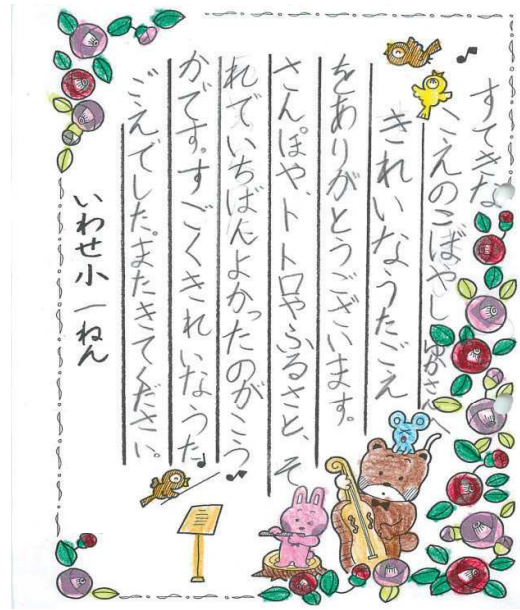
- 会場：岩瀬小学校 体育館
- 参加者数：745名

【内訳】

本校児童：	406名
本校職員：	29名
保護者：	204名
地域住民：	75名
学校関係招待者：	31名

ハートフルコンサートは、オープニングの「乾杯の歌」から始まり、ソプラノ、アルト、バリトン、テノールの声の紹介、「夢の世界を」「花～荒城の月～浜辺の歌」の重唱、「岩瀬小学校校歌」「ふるさと」「君をのせて」「さんぽ」「となりのトトロ」と、素晴らしい歌声を聴かせていただき、予定の1時間があっという間に過ぎてしまいました。特に、「校歌を歌おう」や「ふるさと」では、本校吹奏楽部の演奏に合わせ、児童はもちろん、保護者、教職員、地域の皆様と一緒に、心をつなげて、歌うことができました。





◎PTA 会員の関わりの状況

前年度、近隣の小学校で同様の音楽鑑賞会を実施していたので、PTA会長を本校にお招きし、運営に当たったの必要事項や留意点、改善点等を教えていただきました。

また、PTA本部役員が、受付、会場案内、出演者の対応等を行いました。当日は、地域の高齢者施設からも多くの来場者があったので、保護者の的確で、きめ細やかな対応が好評でした。

◎事業の効果 (実施してよかったこと)

プロのオペラ歌手の歌声を間近で聴くことによって、児童の音楽に対する興味・関心を高めることができました。また、夢に向かって頑張ることのすばらしさを実感することができました。

さらに、「いばらき教育月間」の一環として、今回、保護者や地域住民を招待しての音楽鑑賞会を実施したことによって、学校教育に対する理解を一層深めることができました。

◎事業実施に当たって留意したこと (苦労したこと)

今回は、本校卒業生に出演を依頼したのですが、それほどの困難さはありませんでしたが、事業を実施するに当たり、誰に（どこに）出演を依頼すればよいかについては、最初に頭を悩ますことだと思います。

また、出演料のための財源の確保は大きな課題です。プロの芸術家に出演を依頼するには、それなりの出演料が必要となってくるので、単Pだけの事業には限界があると思います。

◎その後の状況

本校では、PTA活動として今回のような事業を実施するのは初めてでしたが、来年度以降も是非、継続していきたいと思っています。

◎おわりに

今回の事業をきっかけに、岩瀬小学校PTAとして特色のある事業を継続し、PTA活動の活性化を図っていきたくと考えています。